

メキシコ政治情勢（10月）

〔概要〕

【内政】

- 5日、「エル・フィナンシエロ」紙は月例世論調査を発表。ロペス・オブラドール大統領の支持率は62%で、先月に比して3%上昇。
- 16日、シエンフエゴス前国防相が米国で逮捕された。
- 18日、コアウイラ、イダルゴ両州における選挙で、制度的革命党（PRI）が大勝。
- 23日、デルガド下院議員が与党国家再生運動（MORENA）新党首に決定。
- 27日、シェインバウム・メキシコ市長が新型コロナウイルスに感染。
- 30日、ドゥラソ治安・市民保護相が、明年のソノラ州知事選に立候補するため辞任。
- 30日、「ロ」大統領は、野党系州知事らによる予算の拡大要求を却下すると発言。

【外交】

- 6日、エブラル外相は、訪墨したウルリッチ・ブレッカーブル米 국무省顧問と会談し、貿易、治安問題等につき協議。
- 7日、墨政府と欧州評議会が戦略的パートナーシップの立ち上げに合意。
- 8～12日、「ロ」大統領夫人が訪欧（仏、伊、バチカン、澳）し、各国首脳他と会合。
- 13日、「エ」外相は、抗新型コロナウイルス・ワクチンの事前購入契約を発表。
- 13日、メキシコが2021～23年期国連人権理事会理事国に再選。
- 19日、墨政府は、ボリビア大統領選におけるアルセ候補の当選に祝意を表明。
- 20日、訪墨した韓国外交副部長とベントゥーラ筆頭外務次官が会談。
- 21日、日本国政府から墨保健医療システムへの経済協力に関する合意に署名。
- 26日、「エ」外相は、感染症拡大による世界的経済危機への対策に係る国連特別総会の開催を呼びかけ。

【内政】

1 大統領支持率等に関するエル・フィナンシエロ紙世論調査

5日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率、治安対策等に関する世論調査結果を発表した（9月11～12日および18日、25～26日に有権者1,210名を対象に電話調査形式で実施。誤差±2.8%。（※）を付した質問は、25～26日に410名を対象に実施された項目。）

今次調査において、「ロ」大統領の支持率は前回に比して3%増。

（1）ロペス・オブラドール大統領の政治運営を支持するか。

- ・支持する：62%（前回調査時（8月下旬、以下同じ）は59%）

- ・支持しない：36%（前回40%）
- (2) 各テーマに関する「ロ」政権の対策をどう評価するか。
- ・新型コロナウイルス感染症：評価する44%、しない28%
 - ・女性殺人や女性への暴力：評価する29%、しない49%
- (3) 「ロ」政権下で、以下の項目は減少したと思うか、増加したと思うか。
- ・汚職：減少した55%、増加した19%
 - ・貧困：減少した36%、増加した27%
 - ・治安（犯罪・暴力）：減少した34%、増加した29%
 - ・表現の自由：増加した38%、減少した15%
- (4) 「ロ」大統領による元大統領訴追に関する国民投票実施の提案を評価するか（※）。
- 評価する：70%、評価しない：17%
- (5) 元大統領を調査するかどうかの国民投票が実施されれば、どのように投票するか（※）。
- 調査すべき（賛成する）：75%（8月時点76%）
- 調査すべきでない（反対する）：10%（8月時点8%）
- (6) 元大統領に対する調査は司法手続を踏むべきか、国民投票で決めるべきか（※）。
- 司法手続を厳格に踏むべき：69%（8月時点74%）
- 国民投票で決めるべき：23%（8月時点16%）
- (7) 各分野における政府の政策運営を評価するか。
- ・経済分野：評価する25%（前回19%）、しない49%（前回61%）
 - ・保健分野：評価する41%（前回33%）、しない33%（前回36%）
 - ・治安対策：評価する31%（前回23%）、しない51%（前回59%）
 - ・汚職対策：評価する46%（前回27%）、しない35%（前回50%）
- (8) 大統領専用機の売却に関する意見如何。
- 成功であったと考える：42%、失敗であったと考える：40%
- (9) 本日「ロ」大統領に関する信任投票が実施された場合、どのように投票するか。
- 信任する：62%（8月時点56%）、信任しない：33%（8月時点39%）
- (10) 反ロペス・オブラドール大統領国民戦線（FRENAA）について聞いたことがあるか（※）。
- ある：68%、ない：29%
- (11) 反ロペス・オブラドール大統領国民戦線（FRENAA）がメキシコ市憲法広場で連日抗議集会を行っていることをどう思うか（※）。
- 良いと思う：29%、良くないと思う：47%

なお、6日付同紙世論調査（9月下旬実施）では、「連邦議会下院議員選挙が本日行われた場合、どの政党に投票するか」との質問に対し、MORENAとの回答が39%（8月時点32%）、国民行動党（PAN）との回答が11%（8月時点11%）、PRIとの回答が

10%（8月時点10%）。MORENAへの支持率のみが上昇傾向にある。

2 シエンフエゴス前国防相が米国で逮捕

16日、シエンフエゴス前国防相（2012～18年、ペニャニエト前政権時）が、麻薬密輸組織との不正な癒着関係や資金洗浄の疑いにより米国で逮捕された。閣僚級の政府高官が国外で身柄を拘束されるのは初めて。シエンフエゴス氏は、過去に駐日メキシコ大使館の防衛駐在官を務めた。同氏は75万ドルの保釈金を支払うと申し出たが、米国裁判所により却下された。

3 地方選挙（コアウイラ州、イダルゴ州）でPRIが大勝

18日、コアウイラ州の州議会（25議席）選挙及びイダルゴ州の84の自治体首長選挙が行われた。前者についてはPRIが16議席の小選挙区を全て獲得、比例代表の残り9議席は、MORENAに4席、PANに3席、緑の党に1席、地方政党に1席割り当てられた。後者についてはPRIが32自治体、民主革命党（PRD）が7自治体、MORENAが6自治体、PANが5自治体の首長のポストを獲得。伝統的にPRI勢力が強い両州で、同党が大勝した。

4 マリオ・デルガド下院議員がMORENA新党首に決定

23日、MORENA党首選の第一回と第二回投票（MORENA支持者への訪問式アンケート調査）で引き分けていたマリオ・デルガド下院議員・下院政策調整委員長とポルフィリオ・ムニョス＝レド元下院議長の決選投票（4,729名のMORENA支持者を対象とする同形式調査）結果が発表され、デルガド候補が58.6%を獲得し、MORENA新党首に決定した。

5 要人の新型コロナウイルス感染

27日、シェインバウム・メキシコ市長は自身のツイッターで、新型コロナウイルス検査で陽性反応が出たと発表。その他要人の陽性反応者は、ビジャロボス農業・農村開発大臣、マリオ・デルガド新MORENA党首の他、21名の上院議員等。24日には、MORENA所属の上院議員1名（ホエル・ラミナ・ラミレス議員、トラスカラ州選出）が死亡した。

6 明年の諸選挙に立候補する政府要人の辞任

30日、ドゥラソ治安・市民保護相が、明年のソノラ州知事選挙に立候補するため辞任した。後任には、ロサ・イセラ・ロドリゲス女史が就任（注：11月3日の大統領早朝記者会見で就任が確定されたと発表）。ロドリゲス女史は、メキシコ市政府長官や連邦特別区（当時）長官を歴任し、本年7月より通信運輸省港湾及び商船総合調整官（次官級）を務めていた。その他、明年の選挙に向けて10月末で辞任が発表された政府高官は、サカテカス州知

事に立候補するモンレアル農業・農村開発省畜産調整局長官（リカルド・モンレアル上院議員の弟）、ハリスコ州選挙に立候補するウリベ外務省政策調整局長官等。

7 野党系州知事らが連邦政府に予算の拡大を要求

30日、野党系州知事のグループからの、連邦から各州に割り当てられる予算拡大の要求に関して、「ロ」大統領は、汚職との闘いと綱紀粛正策の文脈で「抗議をされても、フィフイ（注：「ロ」大統領がよく用いる、エスタブリッシュメントや社会的に高い地位にある者を批判的に指す表現）で保守的な報道機関からいくら批判されても、予算はない。これまでの政権は、頼みこめば特別な扱いをしてくれたかもしれないが、当政権としては、今以上の予算は出せない」と発言。野党系州知事らは「連邦主義者同盟（Alianza Federalista）」という名の反「ロ」政権グループを結成し、「ロ」大統領との面会を求めているが、同大統領は要求を受け入れていない。

【外交】

1 「エ」外相と米国務省顧問の会談

6日、「エ」外相は、訪墨したウルリッチ・ブレックブール米国務省顧問他と会談し、墨米加新協定（USMCA/T-MEC）発効後の貿易の回復、治安分野における協力の進展等に関し協議した。双方は、二国間の貿易の回復を歓迎し、USMCAの利点を生かすメカニズムについて協議した。また、治安に関するハイレベル・グループの活動の進展について、両国間の責任共有が強調された。墨側は、米国への麻薬密輸対策の必要性と同様に、米国からの銃器密輸の流れを防ぐための二国間の協力深化も重要と強調した。

2 墨政府と欧州評議会が戦略的パートナーシップの立ち上げに合意

7日、メキシコの欧州評議会（Council of Europe：EUとは別の国際機関。人権、民主主義の発展、法の支配、文化的協力について重点的に活動）オブザーバー就任20周年を祝し、墨政府と同評議会は戦略的パートナーシップの立ち上げに合意した。同パートナーシップの下、文化財保護、ジェンダー平等、人権、民主主義、法の支配等のテーマに関する両者間の対話・連携関係拡充が宣言された。同評議会のオブザーバー国は5カ国あるが（注：日本もそのうちの一つ）、これまでに戦略的パートナーシップを締結した国はメキシコのみ。

3 大統領夫人の訪欧

8～12日、ベアトリス・グティエレス（ロペス・オブラドル）大統領夫人が訪欧。フランス、イタリア、バチカン、及びオーストリアを訪問し、各国首脳他と会合するとともに、明年の墨独立達成200周年記念事業に向け、これらの国が保有するメキシコ由来の歴史・文化的遺産の一時返還要請等を行った。

4 抗新型コロナウイルス・ワクチンの事前購入契約が完了

13日、「エ」外相は、大統領早朝記者会見において、抗新型コロナウイルス・ワクチンの事前購入契約を米英中のそれぞれの国の製薬会社3社(米Pfizer社、英AstraZeneca社、中Cansino Biologics社)との間で完了したと発表した。これら3社から購入できるドースと、COVAXファシリティーへの参加により購入できるドースを合わせると、合計1億1,600万人のメキシコ人への接種が可能となる。

5 メキシコが国連人権理事会理事国に再選

13日、メキシコが2021～23年期人権理事会理事国に再選された。メキシコは、2006～09年期、2009～12年期、2014～16年期、2018～20年期に続いて5期目の当選となる。再選を伝える同日付墨外務省プレスリリースでは、墨政府の多国間外交への強いコミットメントが述べられた。

6 墨外務省がボリビア大統領選挙におけるアルセ候補の勝利に祝意

19日、ロペス・オブラドールは自身のツイッターに掲載したメッセージで、また、墨外務省はプレスリリースを发出し、ボリビア大統領選挙におけるルイス・アルセ候補の選出に祝意を表した(注:墨政府は、11月8日の「ア」新大統領就任時にも、「ロ」大統領のビデオメッセージと墨外務省プレスリリースで祝意を表した)。「エ」外相は、ボリビアの民族自決と民主的選挙を祝賀すると共に、メキシコが2021年の議長に連続再選したラメリブ共同体(CELAC)へのボリビアの再参加を促した(注:ボリビアは、エボ・モラレス大統領が2019年秋に国外亡命した後、暫定大統領の決定により、CELACを脱退していた)。

7 韓国外交副部長と筆頭外務次官の会談

20日、ベントゥーラ筆頭外務次官は、訪墨した韓国のキム(Kim Gunn)外交副部長と墨外務省で会談した。感染症拡大後、初の韓国からの公式訪問。両次官(副部長)は、政治的対話、及び現在の複雑な国際情勢の下で共通の立場を推進する協力の重要性を強調。また、パンデミックからの包摂的、持続的な回復を達成すべく協働を強化することで合意。経済分野では、近年の貿易投資の顕著な伸びを強調。こうした傾向を維持し、恩恵を受けるアクターや部門を多様化する大きな可能性につき一致し、イノベーション、技術開発等における機会を見定めた。

8 日本政府からメキシコ保健医療システムへの経済協力

21日、日本国政府から墨保健医療システムへの経済協力を行う合意への署名式典が開催された。同経済協力により、国連プロジェクトサービス機関(UNOPS)を通じてメキシコ医療保健機関へ約6億円規模の医療機材支援が行われる。

9 メキシコ及びラ米諸国、感染症拡大による経済危機への対応を国連機関に求める

26日、「エ」外相は、感染症拡大による経済危機への対策を考える国連特別総会を開催すべきであるとの提案を発表した。同外相によると、メキシコは、「国連機関が、経済回復に向けた投資等の貧困対策に取り組むべきである」との考えを他のラ米諸国や国連ラ米カリブ経済委員会（CEPAL）と共に推進している。「エ」外相は、同提案の理由を、経済危機の影響を最も受けやすい地域がラ米カリブ地域であり、国連機関を通じて裕福な国々が支援策を打ち出すべきであるためと説明した。

(了)